



がっこう 学校だより

がっこう
12月号



**Challenge
Dream
Interaction**

れいわ ねん がつ にち
令和3年11月30日
よこはま しりつかみい だしょうがっこう
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>

たいけん とお まな 体験を通した学び

こうちやう よこやまよしあき
校長 横山 美明

「あっ、お寿司屋さんだ。」

これは片品・日光修学旅行で沼田から片品に向かうバスの中での子どもの一言でした。その言葉を聞いた時、民家も少ないこのような閑静な場所にお寿司屋さんがあるのかなと思いました。見てみると古民家の庭に大きな倉が建っていました。その倉を見て、自分の家の近くにある寿司チェーン店を思い浮かべたのでしょうか。私が「あれはただの倉でしょ。」と言うと、別の子が「倉って教科書にも載ってたよ。」と教えてくれました。すると最初に声を上げた子は「おおーそうか、あのお寿司屋さんの原点を知った!」と得意げになっていました。その夜、片品村の古くからの行事である「とおかんや」をするために外を歩いていると、空を見上げた子が「うわあ、空って、こんなに星がたくさんあったんだ。すごいね。」と感激していました。また、「とおかんや」を終え、宿の前で集合写真を撮るためにマスクを外した時には「空気がすごくおいしい!それにとても澄んでいるね!」と声を上げていました。これらは、修学旅行を通して子ども達が学んだことのほんの一部です。1泊2日という短い間でも学校とは違った自然の中に身を置くことでいろいろな学びがありました。倉にしても星空にしても教科書やその他の学習の中で見たり聞いたりしたことがあったものは、記憶として残ってはいても本当に自分のものにはなっていないのかもしれない。それが修学旅行の中で自身の五感を通しての体験と結び付いたことで本当に自分の知識となったのではないかと思います。2日目の最後に行った「だいや川公園」の中でガイドをしてくださった方も「生活の中にある小さな気付きや発見を大切にしてください。」とおっしゃっていました。

修学旅行だけでなく、11月2日に5年生が行った「猿島体験学習」、11月25日に4年生が行った「愛川体験学習」でも子ども達一人ひとりに、教室の学習だけでは学ぶことのできないいろいろな気付きや発見があったことと思います。体験学習の中で興味をもったことや感じたこと、疑問に思ったことにすぐに取り組んで答えを見つけることはできないのかもしれない。でも、そうした一つ一つの気付きや発見、疑問に思ったことを忘れないで心の引き出しにしまっておいて、今度はその後の教室での学習で学んだことと結び付けることで、それらが確かな知識、自分の力へと繋がっていくとおもいます。

何にしても、コロナ禍の中、こうした体験学習を無事終わることができたのは、保護者の皆様がおさまけんこうかんりきくばほかにほんとう子様の健康管理に気を配ってくださったからに他なりません。本当にありがとうございました。